

■ 備え無くば憂いあり ■

雨や雪は降らない確率の方が高いが、時々降る。そして降ったらある意味夏以上に悲惨なことになるケースが多いので、無策・天任せで参加するのはオススメできない。

ただし夏とは異なり、夕立やゲリラ豪雨のように晴れていたのに突然雲が湧き上がって激しく降るということは少なく（稀にはある）、降る可能性がある日は最初から天気が悪いことがほとんどなので参加日近辺の気象情報には注意しておこう。

◆ 雨・雪の際に覚えておくべきこと

入場待機時間がチケット制になって短縮されたことで何の準備もしてこない参加者も多くなり、陽射しや暑さ、寒さ、雨や雪などといった天候の影響で体調を崩す例は少なくない。まずは夏冬を問わずに天候の影響というものを決して軽視せず、必ず最低限の対策は用意して参加することを心がけてほしい。

たとえ数分でも雨に当たれば、冬ならそれを乾かすのには何時間もかかるかもしれない、その間寒さと濡れた服の不快感に耐えなければならぬ。対策装備は使わなければただ少し携行物が増えるだけだが、いざというときに無ければ被るダメージは大きいのだ。

冬コミ頃の雨は、傾向的には早朝か午後以降に降り出すことが多く、夏と異なり一気に激しく降るのではなく、弱い雨が降り続き、雪になりうすら積もることがあっても短時間で雨に戻るか止む場合が多い。

つまり、入場待機時間や帰宅時間に降ることが多く、これまでもそれで苦労した参加者が多いということだ。

◆ 濡れないこと・濡らさないこと

夏のゲリラ豪雨は、降り出したと思ったらあっという間に土砂降りになるので、ろくに雨具を着る暇も無い。自分とはもかく戦利品を！という参加者は多いだろう。

夏ならば薄着で気温も高いので濡れてもまだなんとかなるが、冬はまた勝手が異なる。

濡れた服は簡単には乾かない。特に厚手の生地や靴、あるいは重ね着の中まで浸水したら、ずっと冷たく体温を奪われ続けることになるため、身体に直接触れる衣服を一定以上濡らしてしまわないことが冬の雨雪対策の最優先となる（そもそも冬の雨雪は、何度も述べている通り突然降り出すことはほぼ無いので、荷物の雨対策にはビニール袋などを準備しておきさえすれば十分余裕があるはずだ）。

上は夏冬共通でポンチョを用意しておけば事足りるが、問題はボトムだ。ズボンであれスカートであれ、雨が予想されるならポリエステル系化学繊維を含んだ多少なりとも乾きやすいものを選択するか、中にタイツやストッキングを履くことを推奨したい。化繊やウールなどのロングアンダーウェアは濡れてもすぐに乾くので肌から濡れたボトム側にどんどん体温が奪われていくのを防ぐことができ、不快感も低減してくれる。普段真冬でもズボン1枚、という男性参加者諸氏も、この冬コミの際には是非ロングアンダーウェアを試してみしてほしい。防寒とはこういうことか、と実感できるはずだ。



■ 新開催スタイル対応持物リスト：<https://www.comi-navi.com/>



● サークル参加者こそ、防寒必須

これまで冬コミでは最大の防寒必須要因だった入場待機時間がチケット制で激減し、大手や企業の購入待機は完全に日中で天気が良いなら屋外でもむしろ少し暑いくらい。今やコミケットでは重防寒対策は必要ない……？ 残念ながらそうはいかないのがサークル参加者だ。昨今ホール内の空調はやや改善され、大部分はそこまで寒くはなくなりつつあるが、配置場所によっては外からの風が吹き込み、かつ陽射しのぬくもりとは無縁で会期時間の大部分が寒さとの戦いになる。

じっと座っていると冷えは足腰から這い上がってくるので、自分の寒さ耐性に合わせて携帯座布団やブランケットを用意し、靴下は防寒用の厚手で長いもの、腰や背中にも貼るカイロを仕込んだ上で、指先がかじかまないようにもう1つ貼らないタイプを握る、といったフル防寒が必要になるかもしれない。特にまだ参加経験の少ないサークル参加者は、必ず事前に自分のサークルの配置場所を確認しておこう。もしもトラックヤード側の開口部に近かったら、忘れずに防寒グッズや熱い飲み物を用意して参加することを強く推奨したい。